

『ナイン・ストーリーズ』

J.D.サリンジャー著、野崎孝訳／新潮社

J.D.サリンジャーといえば、『ライ麦畑でつかまえて』が有名ですが（同書は、ジョン・レノンを射殺したマーク・チャップマンの愛読書としても有名）、本書は、そのサリンジャーが自身のお気に入りの短編を文字通り9つまとめて1953年に出版した『NINE STORIES』の翻訳本です。ちなみにサリンジャー本人も、1965年を最後に2010年に他界するまで一切作品を発表せず、外部との接触さえ拒否し続けた伝説の謎の作家であります。

そもそも、この本をどうして読み始めたのかはよく覚えていません。たしか高校3年生のときに近所の行きつけの本屋で手に取ったのが初めだったと思います。それまで“洋物”といえば「古典的」文学作品ばかり読んでいた自分にとって、作中人物と一緒に自分もその場面にいるかのような錯覚を抱かせる彼の独特な描写手法に衝撃を受けたのを覚えています。

その9つの話、『バナナフィッシュにうってつけの日』、『コネティカットのひょこひょこおじさん』、『対エスキモー戦争の前夜』、『笑い男』、『小舟のほとりで』、『エズミに捧ぐ—愛と汚辱のうちに』、『愛らしき口もと目は緑』、『ド・ドーミエ—スミスの青の時代』、『テディ』にはすべて若い人が出てきます。時代こそ1940、1950年代の話ですが、彼の描く若者たちは、子供でも大人でもない当時の自分の中に簡単に入ってきました。以来、私の愛読書です。

この本を、ふと読み返したくなるときがあります。電車やバスに乗ってばーつと車窓を見ている時や旅先で初めて訪れた街をぶらぶらしているときなど、「あの作品のあの場面」というのが急に頭に浮かんできてどうしても読みたくなる、そんなときは迷わずに本屋に向かいます。思い返せば、これまでに4、5冊はこの本を買っていると思います。立ち読みもよくします。

今の情報化された社会では、自分が見たいと思う映像（シーン）はインターネットの動画サービスなどを使えば、好きな時に好きなだけ見られるかもしれません。しかし、本を読むということは自分の頭の中に自分で映像（ヴィジョン）を作り出すこと、それは誰かと簡単に共有できるものではありません。自分の中にだって毎回違う映像が創り出されるわけですから。本でしか得られないものはまだまだあります。

この本は9つの短編作品もそれぞれ独立していて、厚さもそれほどない読みやすい作品です。また、すこし大きな書店にいけば英語版も入手できます（英語も平易で読みやすく、洋書に挑戦するにはちょうどいいです）。是非、一度、手にとって読んでみてください。

執筆者紹介

塚部 暢之

本学学務部国際課長。技術士（原子力・放射線部門）。

『書名』 著者名 翻訳者名 出版社または文庫・シリーズ名 出版年 税込価格

『ナイン・ストーリーズ』 サリンジャー著 野崎孝訳 新潮社（新潮文庫）
1988年 460円

『Nine stories』 J. D. Salinger著 Little, Brown 1953年 504円

[ブックガイド目次へ](#)